

『虞美人草』宗近糸子

Junko Higasa 2018.10.27

糸子。この名前から以下のような連想をした。

■糸子は乱菊文様の緋の着物を着ている。
花卉が乱れた菊（国家動乱）一久留米緋—九州

■糸子は裁縫の鉢に縮緬で作った猿を付けている。
縮緬（朝廷）—猿（幕府・政府）

名字の「宗近」は太刀。こう見ると、思い浮かぶのは、動乱期の西郷隆盛の妻「糸子」である

【西郷糸子】

夫の発言を言葉通りに受け止めて従った。夫の前妻の子を厭わず面倒を見た。

【宗近糸子】

甲野欽吾の「結婚しない方がよい」という言を言葉通りに受け止めた。欽吾を快く思っていなかった義母の面倒も厭わない。

あるがままの状況を受け入れる寛大さ。伴侶を愛し、信頼して揺るがず、内面の意志の強さで伴侶にとって困難な局面にも立ち向かえる覚悟。生活においては贅沢をせず堅実。

二人の「糸子」は、どことなく似ている気がする。